

固有値と固有ベクトル

n 次正方行列 A に対し,

$$A\vec{p} = \lambda\vec{p}$$

を満たす数 λ を A の固有値, $\vec{p} (\neq \vec{0})$ を固有値 λ に対応する A の固有ベクトルとよぶ.

- 固有ベクトルは連立方程式 $(\lambda E_n - A)\vec{x} = \vec{0}$ の $\vec{0}$ でない解 (非自明解) である.
- 固有値は $\det(\lambda E_n - A) = 0$ を満たす数である.

固有値, 固有ベクトルの求め方

- (1) 固有多項式 $f_A(t) = \det(tE_n - A)$ を計算する.
- (2) $f_A(t) = 0$ の解 $t = \lambda$ を求める (この解 λ が A の固有値である).
- (3) (2) で求めた各 λ に対し, 連立方程式 $(\lambda E_n - A)\vec{x} = \vec{0}$ の非自明解 $\vec{x} = \vec{p}$ を求める (この解 \vec{p} が A の固有値 λ に対応する固有ベクトルである).

例題 行列の $A = \begin{pmatrix} 1 & 3 & 2 \\ 0 & -1 & 0 \\ 1 & 2 & 0 \end{pmatrix}$ に対して, 以下の問に答えなさい.

- (1) 固有多項式 $f_A(t) = \det(tE_3 - A)$ を求めなさい.
- (2) 3次方程式 $f_A(t) = 0$ の解 λ を求めなさい.
- (3) (2) で求めた各 λ に対し, 連立方程式 $(\lambda E_3 - A)\vec{x} = \vec{0}$ の非自明解 \vec{p}_λ を求めなさい.
- (4) (2) で求めた各 λ に対し, $A\vec{p}_\lambda = \lambda\vec{p}_\lambda$ が成り立つことを確かめなさい.

問題 行列 $\begin{pmatrix} 0 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい.